

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	MK	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学 年	2 年	派遣国	タイ（チェンマイ）
派遣大学	チェンマイ大学		
期 間	2024 年 10 月 30 日～2025 年 3 月 23 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他（ ）					
部屋	個室 / 2 人部屋 / 3 人部屋 / その他（ ）					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	○	シャワー	○	洗面所	○
	キッチン		冷暖房	○	冷蔵庫	○
滞在費	約（ 3 万）円 （家賃 6000baht+電気・水道代） *1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	（ 徒歩 ）で、約（ 20-30 ）分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

（1）1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	20000 円	基本 1 日 2 食+ドリンクかおやつ
学用品購入費	3000 円	制服
交通費	4000 円	週末のお出かけ
交際費	15000 円	
その他	4000 円	洗濯、Sim（約 2000 円）、飲料水

合計

約 45000 円

*概算で記録してください。

（2）治安状況・危険地域など

全体的に治安はとてもいい。

大学周辺は 21 時ごろになっても正門と裏門どちらも学生が夜ご飯を食べているので安全。夜の旧市街も人が多いため安全だけど、細い通りなどには一人で入らないほうがいいと思う。（危険な目に遭ったことはないです。）

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海外 / その他 ()		
加入期間	(6) ヶ月間	保険料	(60580) 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称			
加入期間	() ヶ月間	保険料	() 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町 (チェンマイ) チェンマイは「コムローイ」と呼ばれるランタンあげのイベントで有名な都市。また、東南アジアの中で治安がいいまちであるとも言われているらしい。 チェンマイの中心部である旧市街にはたくさんのお寺があり、日本ではあまり見ることがない煌びやかで豪華な装飾が施されているお寺が多い。また、海外からの旅行者や短期滞在者も多く、さまざまな国の人を見かける。週末には大きなナイトマーケットが行われ、夕方から夜にかけて賑わうまちの雰囲気がある。物価も旧市街の中は若干高め（バンコクなどに比べれば安い）だが、大学内や周辺は安くて美味しい店が多くてご飯に困ることはない。自然も豊かで、滝やタイ最高峰の山「ドイ・インタノン」もある。 3 月ごろから P.M.2.5 の影響からか空気が霞んで見える日もあった。（今年の大気汚染の影響の始まりは若干遅かったらしい）

【学業編】

1. 大学情報

大学	チェンマイ大学	所在地	チェンマイ
最寄空港	チェンマイ空港	空港からの距離	6.8km
空港⇄大学	(車で 20 分) *移動手段		
学生数	約 37000 人	留学生数	約 1800 人
学部	マスコミュニケーション、農学、歯科、医学、法学、経営学、看護学、薬学、人文学、政治学、化学、芸術学、工学、教育学、建築学、社会学、公衆衛生、 *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	人文学部（日本語学科）所属 *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (11)月～(3)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	Environmental science today's world			Environmental science today's world	
午後	Global History	Thai in everyday life Tourism in ASEAN		Global History	Thai in everyday life Tourism in ASEAN

② ()月～()月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前					
午後					

3. 履修内容

科目	Environmental science today's world		
履修期間	11 月～3 月 週 2 回	単位数	3
授業内容／形態	オムニバス形式（トピックごとに教授が変わる）、講義メイン 様々な環境問題についてそれぞれ専門の教授が講義を行う。再生可能エネルギーや大気汚染などタイや東南アジアが抱える環境問題についても学ぶ事ができた。		
成績	A		
YCU 振替予定	科目	特講国際教養学部留学科目	
	単位数	3	
	担当教員		

科目	Global History		
履修期間	11 月～3 月 週 2 回	単位数	3
授業内容／形態	講義、ディスカッション、プレゼン 世界各国史ではなく、世界全体の繋がりに焦点を当てた講義。宗教の伝播やシルクロードなどの交易路がどのように周辺国や人々に影響を与えたかなど全体像を見て繋がりを考える事が多かった。		
成績	B+		
YCU 振替予定	科目	特講（Technology and Society） または特講国際教養学部留学科目	
	単位数	3	
	担当教員	ギミールクレベール ベルトラ	

科目	Thai in everyday life 2		
履修期間	11 月～3 月 週 2 回	単位数	3
授業内容／形態	講義、プレゼン 英語でタイ語の日常会話を学ぶ講義。タイ文字の書きや発音の仕方から、日常会話などで使われる単語や文法をま学習した。最終プレゼンでは、タイ語で他己紹介を行なった。		
成績	A		
YCU 振替予定	科目	アジア諸言語 I、II（タイ語）または 特講国際教養学部留学科目	

	単位数	3
	担当教員	柿崎 一郎

科目	Tourism in ASEAN		
履修期間	11 月～3 月 週 2 回	単位数	3
授業内容／形態	講義、ディスカッション、フィールドトリップ 観光学の定義から始まり、ASEAN や SEA 地域を中心に観光が生み出す経済的な利点や環境への負荷などを学習した。フィールドトリップでは、山岳民族の村を訪問し、タイ王立プロジェクトについても学びを深めた。		
成績	B		
YCU 振替予定	科目	特講国際教養学部留学科目	
	単位数	3	
	担当教員		

科目			
履修期間		単位数	
授業内容／形態			
成績			
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目			
履修期間		単位数	
授業内容／形態			
成績			
YCU 振替予定	科目		

	単位数	
	担当教員	

科目			
履修期間		単位数	
授業内容／形態			
成績			
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目			
履修期間		単位数	
授業内容／形態			
成績			
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

この留学で得たことは大きく二つあります。一つ目は、積極的に行動するからこそ得られるものがあるということ。二つ目は、人それぞれバックグラウンドは異なりそれを知り尊重することが大切であるということ。

一つ目の積極的な行動というのは、出会った人と関わりを持ち続けるために自ら連絡を取ったり、声をかけたりしたことです。正直、現地の大学に通う子たちにとって私は彼女たちの大学生活にたまたま現れた留学生の一人でしかありません。それでも、私は全ての出会いが新しく大切にしたいという気持ちで行動をしていました。拙い英語でも声をかけ、会話を続けてみたり、彼女たちの出身地などの話を聞いてみたり、相手に興味を持って接することを通じて彼女たち自身のことだけでなく文化やその国のことを知ることに繋がりました。また、今まで食べたことのないミャンマーやカレン族の料理、虫を食べたのもいい経験です。さらに、初学者には難しいと言われたタイ語の授業を受講したことも私にとっては大きな挑戦でした。タイ文字も文法もゼロから学ぶ私にとって「分からない」が当たり前でした。しかし、チェンマイ大学には日本語学科があり、その学生がバディになってくれて、授業の日の放課後は彼らからタイ語混じりの日本語でタイ語を教えてもらいました。タイ語の音が飛び交う中で勉強できたことも良かったと思います。彼らの会話をもっと理解したいから、勉強を頑張るというモチベーションにも繋がっていました。できないなりに頑張る姿を見て応援してくれたり褒めてくれたりする友だちができたのもタイ語の授業をとり、積極的に学ぼうとした行動の結果です。

二つ目は、人それぞれバックグラウンドが違うことは当たり前で、それを知り尊重することの大切さを学びました。この考えは高校でのアメリカ留学で出会ったホストマザーの言葉を正しく理解できた経験でもあります。ホストマザーはタイ人でクリスチャン、違いを尊重することの大切さを教えてもらい、バックグラウンドの違い＝宗教の違いとして当時の私は理解していました。しかし、今回の留学で多くのミャンマー人の学生と出会い、初めて民族の違いというものを意識するようになりました。それは、カチン族の友だちから「ミャンマー人の大多数がバーミーだけど、僕たちみたいに少数民族がいる。そして、多くの人は自分の民族名を自称し、ミャンマー人と呼ばれることを嫌う人もいる。だから、彼らが自分のことをなに人と捉えているかを尊重してあげてほしい」と教えてもらいました。この時まで、出会った多くのミャンマー人が「私はバーミー」だと言っていたことから、ミャンマー人＝バーミーが英語での意味だと認識していた私にとって新しい学びとなりました。他にも、タイはLGBTQ への理解が進んでいて、私が出会った学生や人たちの中にもいました。自分の性を公にもしていたし、周りもそれを知り尊重している環境がありました。その環境の中にいると自由に自分を表現できることはこの社会では当たり前で何も特別なことではないということを感じました。

これらの経験は、人と関わることで得ることができた経験だと言えます。そして、新しい視野、知識、経験をもたらしてくれました。この半年という短い期間であっても留学に行くという選択は間違っていなかったと思います。そして、応援してくれた家族や友だちへの感謝の気持ちを忘れず、この経験をこれからに生かしていきたいです。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

この半年の留学では、色々なバックグラウンドを持つ人たちとの出会いを面白いと感じ、その出会いから多くのことを学び考えることができたと思う。正直、思い描いていたほど多国籍な留学生との交流ができたわけではないが、タイ人だけでなく、ミャンマー人、少数民族出身の人、中国人、韓国人、パキスタン人、チュニジア人など様々な国の人に出会うことができた。彼女彼らからはその国の文化や風景、社会情勢などを学んだ。人との出会いは自分に新しい世界や視野を与えてくれるということを改めて経験し、これからも人との出会いを大切にしていこうと思った。

学習面では、履修した科目のなかで「環境学」と「観光学」が特に興味を持ったので、この二つの学問を関連づけてこれからの学びに生かしていきたいと考えている。例えば、観光客による環境への負荷をいかに軽減させる事ができるか、または自然環境を保全しながら観光客が自然を楽しむエコツーリズムについてなどである。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

留学にいきたい・そのチャンスがあるなら私は留学に行くことをおすすめしたい。それはどこの国であっても、どんな期間であってもである。私自身、大学入学当初から漠然と留学にいきたいと思っていたが、強く留学を意識したのはキャリア形成の講義でお話しして下さった講師の方々から「留学に行けばよかった、いきたかった」という言葉を何度も聞いたからである。幸いにも両親が留学に対して肯定的だったこともあり、留学に行かなかったら将来後悔すると思い、決断。帰国後の今、この決断は間違っていなかったと思っている。日本を離れ、海外で生活することに不安もあったし、街中にタイ文字が溢れていることに圧倒されることもあったけど、留学したから出会えた友だちや経験は必ず自分の糧になっていくと思う。もちろん、思い通りに行かないことも、上手く英語が伝わらないこともあったけど、助けてくれる人はいるし、会話ができるようになったことを実感できる日もくる。

留学に行く決めて、準備できることはしていけるといいけど、現地についたらできることをやっていくしかないし、想像していなかったことも起きるから、どんな時も楽しむことを忘れずに過ごすことができると素敵な留学経験になると思う。